

# 図書館だより

2017. 4. 1 No.148 春号

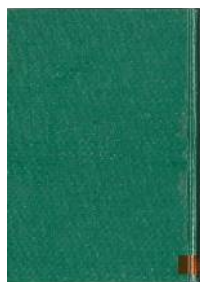
発行: 生駒市図書館 生駒市辻町238番地

TEL: 0743-75-5000 <http://lib.city.ikoma.lg.jp/>



## 祝 ☆ 開館30年 ありがとう みなさん！ おめでとう 生駒市図書館！！

おかげさまで、生駒市図書館は2017年3月15日に開館30周年を迎えました！そこで今回は、開館以来30年間、書庫に追いやられることもなく、内容が古びて除籍されるということもなく、本棚で生き抜いて、図書館と苦楽を共にしてくれた本たちの一部をご紹介します。



『ストーリーテラーへの道』  
ルース・ソーヤ／〔著〕  
池田綾子〔ほか〕／訳  
日本図書館協会

子ども時代にアイルランド人の乳母のおはなしを聞いて育った著者によるストーリーテリング（おはなしを語る行為）の解説書。

ストーリーテリングを創造的な芸術としてとらえ、それを学ぶ厳しさと喜びを伝える語り手必読の書。



『竹取物語・伊勢物語』  
田辺聖子／著  
学研

竹から生まれた美少女が、多くの男性に求愛されながらも月へと帰る「竹取物語」、主人公が平安時代きっての色男、在原業平を彷彿とさせる「伊勢物語」。

千年もの時を越えて語り継がれる古典の名作が、田辺聖子の訳によって生まれ変わる。



『すてきなあなたに』  
大橋鎮子／編著  
暮らしの手帖社

忙しい日々を追われ、ただ時間だけが過ぎてしまっていないですか？身の回りにある物や周りの人たちへのちょっとした気づきや気遣いで、「すてきなあなたに」なるヒントがたくさんつまっています。読めば心が元気になり、素敵に年を重ねていける気がする一冊です。



『葉の花の沖 1』  
司馬遼太郎／著  
文芸春秋

江戸時代後期、淡路島の貧家に生まれた高田屋嘉兵衛は、網元の娘と通じたことで村での居場所を失い、親類の廻船問屋を頼って兵庫に出る。嘉兵衛は生来の勘の良さと類まれなる洞察力で次第に頭角を現し、やがて樽廻船の知工となる。

己の才覚のみで大坂と蝦夷地を結ぶ大廻船問屋にまでのし上がった男の生涯を描く全6巻の大作。

知工……船頭に次ぐ役職の船員

図書館で上記の本をお探しいただくと、新しい本が書架に並んでいるのをご覧になるかもしれません。けれども、たけまるホール図書室を引き継いだ生駒駅前図書室や生駒市図書館（本館）では、開館以来生き続けている「30年選手」の本が現存しています。この本たちに一度会いに来てください。（平成29年4月1日現在）

# え？こんな有名な人たちが生駒に！？ 実はすごいぞ！生駒市図書館

下の年表をご覧ください！図書館30年の歩みと共に、蒼々たるお名前がズラリと並んでいます。この方々はなんと！これまで、生駒市図書館でご講演いただいた方々なんです。こんなビッグネームが生駒に来てくださっていたなんて、みなさんご存知でしたか？生駒市図書館、なかなかやるでしょう？（自分たちではめっちゃいます）今回は、そんな先生方の作品の中から8作品をご紹介します。ぜひこの機会に「八人八色」の作品を手にとってみてください。

	<b>平岩弓枝</b> 『はやぶさ新八御用帳1』 講談社
淀橋と成子坂で殺人事件が発生し、内与力の隼新八郎は密かに真相を探ることとなる。さらに雑司ヶ谷鬼子母神で殺人が起こり、その原因が大奥にあることを突き止めるが……。 人気時代小説「はやぶさ新八」シリーズの第一作。	
	<b>山崎豊子</b> 『花のれん』 新潮社
船場の呉服屋に嫁いだ多加は、夫の死後たちまち商才を発揮。数多くの寄席を持つ大席主となり、通天閣を買い取るまでにのし上がる。著者の生まれ育った大阪を舞台に商いにしか生きられなかった女の一生を描く。吉本興業の創業者をモデルにした直木賞受賞作。	
	<b>椎名誠</b> 『岳物語』 集英社
著者の息子・岳の成長を綴ったエッセイ。小さなころから元気旺盛で遊ぶのが大好きな岳。時には学校でトラブルも起こすが、釣りとの出会いをきっかけにぐんと大人になっていく。そんな彼と見守る父の愛にあふれた一冊。	
	<b>津村記久子</b> 『この世にたやすい仕事はない』 日本経済新聞出版社
小説家の自宅での様子をモニターで監視する仕事、循環バスのアナウンスの文言を作る仕事、おかきの袋にのせる豆知識的な話題を考える仕事等……。短期間で5つの仕事を転々として、私が得たものとは？ちょっと風変わりで、そして真摯なお仕事小説。	
中央公民館 図書室開室！	
<b>平岩弓枝</b> <b>黒岩重吾</b>	
貸出冊数 100万冊達成！	
<b>畑正憲</b> <b>山崎豊子</b> <b>筒井康隆</b>	
電話による 予約受付開始！	
<b>阿刀田高</b>	
子どもの読書活動優秀実践図書館として 文部科学大臣表彰を受賞！	
<b>児玉清</b>	
<b>重松清</b>	
<b>椎名誠</b>	
インターネットでの 予約・延長 受付開始！	
祝日開館開始	
<b>又吉直樹</b>	
<b>津村記久子</b>	
Bibliobattle of the Year 2016 優秀賞受賞	
<b>IKOMA LIBRARY 30 YEARS ANNIVERSARY !</b>	
<b>OPEN!</b> 図書会館に 図書館開館！	
<b>林真理子</b>	
<b>菅野綾子</b> <b>北杜夫</b>	
鹿ノ台ふれあい ホール図書室 開室！	
<b>斎藤茂太</b> <b>高村薫</b> <b>渡辺淳一</b>	
図書館南分館 開館！	
<b>田辺聖子</b>	
<b>宮本輝</b>	
図書館北分館 開館！	
ふるさと納税 記念品に 利用券を追加	
<b>内田康夫</b>	
<b>森見登美彦</b>	
生駒駅前 図書室開室！	
ビブリアバトル 全国大会開催	
<b>朝井リョウ</b>	
<b>曽野綾子</b> 『虚構の家』 文芸春秋	
ホテル経営者の夫と二人の子を持つ日和崎くに子。教育学の教授である夫と、東大を目指す息子、名門高校に通う娘を持つ呉雅子。 一見幸せそうに見える二つの家庭の行方には、底知れない闇が広がっていた。DV、ひきこもり、駆け落ち、薬物依存……。発表後四十年以上たつ今も、普遍のテーマで読者をひきつける作品。	
<b>北杜夫</b> 『どくとるマンボウ航海記』 新潮社	
1958の秋、どくとるマンボウこと北杜夫氏は、船医として約半年の航海に出た。さて、その航海はというと「われ信ず。荒唐無稽なるがゆえに」と結ぶヘンテコなもの。 時と空間を越えた、この希代未聞なる航海記。あなたは、信じる？信じない？	
<b>宮本輝</b> 『優駿上・下』 新潮社	
オラシオン（祈り）と名付けたサラブレッドに一世一代の夢をかけた生産者の千造。余命幾ばくもない弟への思いをオラシオンに託した馬主の娘・久美子。自らの命を賭して騎乗する騎手たちなど、それぞれの運命を描く。	
<b>森見登美彦</b> 『夜行』 小学館	
仲間6人で「鞍馬の火祭」見物に出かけた夜、長谷川さんが姿を消した。彼女を忘れずに10年を過ごした後、再会した5人は、異なる旅先で銅版画家・岸田道生の連作「夜行」に出会い、そこで体験した不思議な出来事を語り出す。 静かな夜に読みたくなる不気味な怪談小説。	

編集後記：今回は、自画自賛の特集テーマになってしまいましたが、生駒市図書館がこうして30周年を迎えることができたのも、ひとえに図書館を利用し続け、図書館を育ててくださった市民のみなさまの愛あればこそです。これからも「行ってみたい！利用してみたい！」と思ってもらえる図書館であり続けるよう、生駒市図書館はこれからも走り続けます！今後も生駒市図書館をよろしく願いいたします！！



利用者の声をお伝えします。

## 🍀 生駒市図書館開館30周年によせて 🍀

### かしの本文庫 平井 富久子

世にいう読書家にはほど遠いけれど、子ども時代から70代になった今日まで、たくさんの本に出会ってきました。高校の図書館で借りた文学全集の中の一節が、いつの間にか私の人生の指針になっていたことに、この歳になって気付く、本の力、ことばの力の大きさをいまさらながら思い知るばかりです。

半世紀前、子育て中に偶然見つけた絵本から受けた新鮮な感動が、文庫を開くきっかけとなり、今に続くライフワークとなりました。「こんなすばらしい本を、一人でも多くの子どもたちに届けたい!」と、友人たちと共に開いたミニミニ図書館一文庫は、図書館がない時代、いつも本に夢中の子どもたちの熱気でむんむんしていました。そんな中、図書館設立の要望書をもって何年も市に足を運んだ遠い日々が懐かしく思い出されます。

やがて、図書館づくりに燃えていた母親たちのエネルギーは実を結び、今年は念願の図書館が開設されて30周年を迎えます。現在、市内には5館(室)ができ、小・中学校の図書室にも専属の司書の配置が進んでいます。幼い子向けの絵本の会などもいろいろとあって、子どもたちの読書環境はずいぶん整ってきました。

子ども時代に出会ったたくさんの本は、その子の中で力強い根っことなって、きっと生きていく力になることでしょう。

図書館はどこまでも広がる知の海、そして現代を知る情報ステーションでもあります。

ひとりの市民として、図書館が身近にあるしあわせな暮らしをより豊かに実現できるように、これからも応援していきたいと思います。

第2回

## ビブリオバトル 全国大会inいこま

3月19日(日)図書会館にて第2回ビブリオバトル全国大会inいこまが開催され、全国から集まった10代から80代までのバトラー32名が集い、本の面白さを競いました。チャンプ本に選ばれたのは次の本です。

### 『不思議な文通 グリフィンとサビーヌ』

ニック・バントック/絵・文 河出書房新社 (1992)

スペシャルゲストは朝井リョウさん。トークイベントではみなさんから頂いた質問に対し、1つ1つに丁寧にかつユーモラスにお答えいただき、時間いっぱいまで大いに盛り上がりました。



↑決勝戦出場者

チャンプ本発表者  
甘木なな子さん →  
堺市立中央図書館の代表



4月～6月の休館日

毎週月曜日、館内整理日(4/7、5/12、6/2)

★4月29日(土)/5月3日(水)・4日(木)・5日(金)の祝日は、全館開館(9:30～17:00)します。